

# 第47回(東京)

## ■ スガ国際ウェザリングシンポジウム2008

今回、国内外を通じてウェザリング技術の国際的権威の方々を講師に招き、ご講演頂きました。

300名を超える多数のご参加を賜り、盛会のうちに無事終えることができました。ご聴講頂いた皆様並びに講師の先生方、役員をはじめご尽力頂きました多くの皆様に厚く感謝し、深く御礼申し上げます。



開会のご挨拶 清水司理事長



超満員の会場

主 催  
テ ー マ  
後 援  
協 賛

財団法人スガウェザリング技術振興財団

ウェザリング技術の国際最新動向

文部科学省

(社)高分子学会 (社)色材協会 (社)自動車技術会 (社)日本ゴム協会

(財)日本ウェザリングテストセンター 日本プラスチック工業連盟 (社)表面技術協会

開催日時 2008年11月14日(金) 10:00～16:00

場 所 八芳園 大ホール(ジュールの間) 港区白金台1-1-1

講演内容

### 1 自動車内装及び外装材料の耐候性評価

日産自動車株

技術開発本部 材料技術部 高分子・機能表面材料グループ

小田 崇

自動車の内外装部品には多くのプラスチックが使用されているが、これらの耐候性を評価して、自動車を使用される環境下における耐久性を正しく見積もることが重要である。本講演では、自動車用プラスチック(ポリプロピレン)の耐候性評価方法の考え方と耐候性改善方法について解説。



### 2 いろいろのステンレス鋼表面と耐食性

新日鐵化学株式会社

取締役シニアエグゼクティブオフィサー

伊藤 毅

一般にステンレス鋼の表面はCr濃縮の不動態皮膜によって耐食性が付与されていることは良く知られている。しかし実際には研磨仕上げ、酸洗仕上げ、焼鈍仕上げなど様々なものがあり、その特徴はまだよく解説されていない。そこでここではステンレス鋼の耐食性の掘ってつ基礎表面の考え方から、上記の実用表面の内容について述べた。またその中で特に光輝焼鈍の表面耐食性向上のために、Si濃縮を利用した場合をのべ、多様な表面設計の一例を示した。



### 3 私は促進耐候試験を何時間行えばよいのか？

ISO/TC61(プラスチック)米国代表

Warren Ketola

屋外暴露1年に相当する促進耐候試験は何時間か？は最もよく受ける質問である。この質問に答えるために行ったアプローチ及び仮説と、仮説が間違っている場合に起こりうる誤差について述べた。製品が特定の屋外耐久性に合致していることを90%信頼するのに必要な促進試験時間を求めるモンテカルロモデルの使い方、また、試験のばらつきの影響の解消・試験時間縮小・信頼性などへの手順について述べた。



#### 4 プラスチックの自動車部品への応用と展望

トヨタ自動車株式会社

車両技術本部 第2材料技術部 有機材料室室長

**間瀬 清芝**

自動車においても、人や環境に配慮した取り組みが不可欠である。特に、樹脂材料は、自動車1台に占める割合が体積で50%を超える現在、軽量化、バイオ化、リサイクル性などに貢献しながら、信頼性、安全性、快適性、低コストといった背反する命題に応える必要がある。今までの延長線上の取り組みだけでは対応できない状況にきており、材料メーカー・自動車メーカーの開発段階からの連携強化の重要性が一層高まると考える。

#### 5 米国自動車業界における屋外暴露試験

AZTEST President

**Joe Robbins**

現在行なわれている自動車内装材料試験用の各種屋外暴露試験の方法を紹介すると共に、暴露装置の構造、換気、ブラックパネル温度、ガラスの種類についてそれらと比較した。各試験法が互いにどのように相関しているか、データを示しながら説明。また、米国自動車業界において現在行なわれている自動車内装材料の屋外耐候試験を併せて紹介。



敬称略



閉会のご挨拶 須賀茂雄 評議員  
財団を代表し、ご来場者並びに講師の先生方への謝辞を述べた。



#### 懇親会の風景

講演会終了後、懇親会を行いました。春山志郎評議員会議長の乾杯によるご発声の後、講師の先生方を囲みご歓談、熱心にご質問される方々などで、にぎやかな会となりました。



乾杯のご挨拶 春山志郎評議員会議長



Mr.KetolaとMr.Robbinsを囲んでご歓談



にぎやかな懇親会場



Mr.Robbinsとご歓談中の参加者